

平成26年度城陽市社会福祉協議会の事業について (重点目標の評価)

本会では「城陽市社協地域福祉活動計画Ⅳ」の基本理念「あの人の幸せを 私の幸せに」に基づき、5つの基本目標の達成に向けて鋭意取り組みを進めてきました。ここでは事業計画に基づく重点目標の評価を中心に、平成26年度の総括を行います。

1. 身近な地域のつながりを強めるネットワークづくり（つながる）

校区社協は地域における住民福祉活動の拠り所であり、その活性化を図るために必要な支援を行いました。校区社協の拠点づくりについては、市社協からの継続的な財源支援をもとに、現在深谷・富野・寺田西・古川・久津川・久世校区の6箇所を確保しています。

さらに見守り活動団体の増加のために府社協の補助事業である「高齢者訪問見守りボランティア強化事業」を活用し、各校区社協・自治会・高齢者クラブ等が行うことができる高齢者の見守り活動の助成支援をしました。

また、住民と専門職が一緒になって取り組むコミュニティづくりの一環として、日常の生活圏域を基盤とするエリアにおける地域内の見守り体制構築に向けた「地域ケア会議」を地域包括支援センターにおいて、久津川・古川校区をはじめ今年度は久世・深谷、富野・青谷校区で新たに開催し校区内の関係機関、団体等と協議を行いました。

2. 安心して気軽に集まれる地域の居場所づくり（あつまる）

校区社協拠点を活用したサロン活動をはじめとする身近で気軽に集まれる場所づくりを推進するとともに、地域包括支援センター等の専門職がその場へ出向き相談窓口を設置し、住民ニーズの把握を行いました。

また、認知症に対する知識や予防のための体操・レクリエーション技術等を学び、地域ごとの活動に活かしてもらえるようリーダー研修にも取り組みました。

3. 暮らしの基盤を地域と支える仕組みづくり（ささえる）

府社協委託事業の生活福祉資金貸付事業では、貸付・償還の体制強化を図るため引き続き専従相談員を配置し、厳正かつ適正な貸付基準の運用と相談援助を行ってきました。償還については滞納世帯への迅速で粘り強い説得・交渉を継続し、引き続き高い実績を上げています。

介護保険事業では、訪問介護事業、居宅介護支援事業、通所介護事業ともに前年度の利用実績を下回り、経営的にも厳しい状況となっています。

また、前年度まとめた「高齢者・障がい者にやさしいお店・サービス」の情報更新及び内容の精査を行うとともに、それに参加している企業やお店、訪問

見守り活動をしている団体の方々を対象とした研修会を開催しました。

4. 一人ひとりの思いを叶えるなかまづくり（かなえる）

ボランティア活動支援においては、今年度も引き続き財政支援と新規ボランティア活動参加者獲得のための講座やイベントを実施しました。

福祉サービス利用援助事業では、年々利用者が増加しており、事務局職員体制を強化し活動にあたりました。

高齢者の総合相談窓口として位置づけられている地域包括支援センターでは、引き続き地域ケアシステムの構築をめざして、医療機関・医師の協力を得た「医療連携事業」や校区社協・民生委員等との連携を図る「地域ネットワーク事業」にも引き続き取り組みました。

5. いつも頼りにされる組織づくり（たよれる）

市社協の住民会費は厳しい社会情勢の中、前年度を上回るご協力をいただきました。引き続き社協の実施する事業の必要性和理解を高める努力とマスコトを活用したPRの強化を行いながら、一人でも多くの住民が参画できる活動の増加に努めてまいります。

また、京都府社協等が主催する各種職員・職域研修に参加し、職員の資質向上に努めました。

各地で頻発する災害を教訓に、本市でも常設の災害ボランティアセンター設置に向け、「城陽市総合防災訓練」への参加や「城陽市災害ボランティアセンター推進協議会準備会」を設置し、運営マニュアルの作成等具体的準備を進めました。

□平成26年8月豪雨災害への支援

8月に日本全域に被害をもたらした豪雨災害に対して、下記の取り組みを行いました。

- ①職員の派遣 ⇒ 被害の大きかった福知山市において現地災害ボランティアセンターの運営支援のため、計6日間のべ6人を派遣しました。
- ②災害支援ボランティアバスの運行 ⇒ 被害を受けた福知山市の支援のため、城陽市民や団体にも呼びかけ、バスを運行し現地支援活動を行いました（18人参加）。
- ③義援金窓口の設置 ⇒ 主として共同募金会の義援金窓口として受付を行うとともに、市内公共施設にも義援金箱を設置し広く義援金の呼びかけを行いました。